

## 2021年度 第1回 教育課程連携協議会 議事要旨

- 開催日時：2021年9月16日（木）15時00分～16時20分
- 場 所：オンラインビデオ会議システムによる
- 出席者：山田学部長、山本副理事長兼学長補佐、山内理学療法学科長、井出作業療法学科長  
滋賀県健康医療福祉部 角野理事、滋賀県医師会 越智会長（委任状提出）  
滋賀県理学療法士会 平岩会長、滋賀県作業療法士会 木岡会長  
東近江市地域包括支援センター 河島センター長  
市立長浜病院リハビリテーション技術科 西村主幹  
滋賀県立リハビリテーションセンター 乙川主査
- 陪席者：山川学長、垣尾キャンパス事務局長、中村センター長、岩崎センター長代理  
丸山学生支援グループ長代理、吉田総務グループ係長
- 欠 席：マキノ病院リハビリテーション科 杉原科長

### 1. 議 事

#### ① 学長挨拶

学長より以下のとおり挨拶が行われた。

開学1年目の昨年度は入学者数が定員を大きく割ってしまったが、今年度は両学科を合わせると定員を上回る入学生を受け入れることができた。

今年度も新型コロナウイルス感染が続く中、5月中旬から6月上旬にかけてオンライン授業やハイブリッド型授業を実施する期間もあったが、基本的には感染対策を十分に行いながら、対面授業を実施した。

8月中旬に藍野大学におけるワクチン職域接種も活用した結果、9割の学生がワクチン接種を完了させており、9月下旬から始まる後期開講科目についても原則的には対面授業を実施していく予定である。

地域貢献活動においては、滋賀県、東近江市、日野町とも連携し、地域に必要とされる大学を目指していくので、構成員の方々からも貴重な意見をいただければ思っている。

#### ② 構成員及び陪席者の紹介

事務センターより本日参加している協議員及び陪席者の紹介が行われた。

### ③ 2021 年度 前期教育活動実施状況 報告

理学療法学科長 山内よりカリキュラムマップに基づき、今年度前期における授業実施状況等について説明が行われた。

1 年生、2 年生ともに見学実習の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実習地が確保できず、オンライン形式による実習に切り替えて実施した。

1 年生については 88 名の学生が在籍をしており、残念ながら 1 名の学生が休学を、1 名の学生が退学を申し出てきている状況である。

高校時代に理系科目をあまり学習することなく本学に入学してきたため、授業内容が理解できず苦しんでいる学生がいる。

また、新型コロナウイルスの影響による家計急変により、本学での学習継続が困難な学生もいる。

理学療法学科では担任教員等による、個人面談を都度、実施し、学生個々の学修実施状況等を把握し指導、助言を行っている。

また、理系科目対策としてオフィスアワーを利用し様々なフォローアップを図っている。

2 年生については、昨年度に退学者や休学者がいたが、今年度は順調にキャンパスライフを過ごしている。

先日、環びわこ大学コンソーシアムの一環として東近江市と共同で東近江市民を対象とした「いきいき生活プロジェクト」を八日市商工会議所にて実施した。そこには理学療法学科学生 3 名も参加し、会場設営準備から、参加者への体操実技指導まで行い、参加者にとっても学生にとっても非常に有意義な体験となった。

後期授業については、ほとんどの学生がワクチン接種を完了させており、対面授業を基本として実施していく予定である。

作業療法学科長 井出よりカリキュラムマップに基づき、今年度前期における授業実施状況等について説明が行われた。

今年度は 39 名の入学生を迎え、2 年生 13 名の学生とともに前期を開講した。

京都や大阪といった近県に緊急事態宣言が発出されたことをうけ、5 月 6 日～6 月 10 日の期間中、オンライン授業やハイブリッド型授業を実施した。

その後、対面授業を再開させた結果、学生間の付き合いが活発化している。

担任教員による個人面談においては、学生から本学に対して好意的な意見をもらっている。

1 年生については、後期の「地域社会共生論実習」において障がい者による講義や障がい者が活躍する現場に赴き、そのような環境を直接見て感じ取れる授業も予定している。

2 年生については、現在、見学実習を実施しており、事前のオリエンテーション等により実習に向かうための事前準備を行った。

作業療法学科についても環びわこ大学コンソーシアムによるイベントを東近江市と共同で 3 回実施予定であり、学生が主体となって活動することにより、地域住民との繋がりを活発化させていければと考える。

### ④ 2020 年度 自己点検結果 報告

事務センター長 中村より本学の2021年度自己点検・評価報告書（案）の概要について説明が行われた。

カリキュラムについては完成年度の4年目以降でなければ大幅な変更は行えないが、教育課程連携協議会（以下「本会」とする。）において地域や医療現場のからの意見を自己点検・評価に取り入れることは、カリキュラム以外でも本学の内部質保証に重要な意味を持つ。

5年目には本会にて出された意見も反映し医療現場の人材ニーズや地域に寄り添うような内容のカリキュラムを編成していきたいと考える。

#### ⑤ 地域連携の状況について 報告

事務センター長代理 岩崎より本学の地域貢献活動や地域連携の現状について説明が行われた。

角野理事より、大学が県又は市町村と協定を結んだ場合、協定締結時は華々しく行われるが、その後、尻すぼみとなっていくことが多くみられる。

毎年度、地域と大学が目標を設定し活動を継続していただきたいとの意見があった。

西村主幹より地域のコンソーシアムには学生主体として参加させるのかとの質問があった。

山川学長より教員の研究にも学生の教育にとっても有効な場として活用していきたいとの回答が行われた。

乙川主査より環びわこ大学コンソーシアムに理学療法学科3名、作業療法学科7名の参加があるとのことではあるが、その学生達は自らの希望を持って参加している学生なのか、それとも教員や学校側から指名した学生なのかとの質問があった。

理学療法学科長 山内より学生に対しコンソーシアムの概要をアナウンスしたうえで興味のある者を募り、集まった学生である。会場の規模や参加人数を鑑みると4名程度は妥当な人数であったと考えるとの回答が行われた。

#### ⑦ その他

乙川主査より、新型コロナウイルスの影響により大変な状況ではあるが、実習施設の確保や実施状況の現状について質問があった。

理学療法学科長 山内より1年生については老健施設での実習を予定していたが、施設利用者が高齢者ということもあり、数件の施設から断りがあったため、学科内で検討した結果、オンラインによる実習に切り替えた。2年生については本学の判断により学内による実習に切り替え実施したとの回答が行われた。

作業療法学科長 井出より1年生は後期より見学実習が始まるため、まだ実習は行われていない。2年生については、いくつかの施設から実習生受け入れを断られたが学生数が13名と少ないため、実習地の振替等の措置をとり、全員、実務実習が行えているとの回答が行われた。

平岩会長より臨床実習施設は近隣が好ましく、できれば滋賀県内での実習が最良であるとする。

現状の実習地確保はどうなっているのかとの質問があった。

理学療法学科長 山内より実習地については県内が8割を切るぐらいで残りは近県となっている。受け入れ人数は60数名程度となっており、1年生の学生数を鑑みると20名程度少ないため、県外の実習地確保も実施していかなければならない状況である。滋賀県理学療法士会からも各病院、施設に対し実習生受け入れについて協力の呼びかけをお願いしたいとの回答を行った。

河島センター長より、先日、八日市商工会議所にて開催されたコンソーシアムを拝見し、市民の健康意識の高さを実感した。このような活動を行うことでびわこリハビリテーション専門職大学が市民にとって身近な存在となり、それが地域行政との繋がりや継続にもなると思う。また地域の開業医にとっても理学療法士、作業療法士の知識や技術が必要となってきた。学生が往診時に医師に同行し住宅改修等による生活環境支援について学んでいただく機会になればと思うとの意見があった。

角野理事より医療現場においてもIoT機器も利用する機会が増えてきており、今後、ICTの知識も医療職にとって必要となると思うので、ICTやIoT機器の取扱いについて学ぶ授業を設ける必要があるとの意見があった。

木岡会長より作業療法士会においては、士会が主催する学習会に学生にも参加してもらい、学生時代から現役の作業療法士とコミュニケーションをとってもらえる機会になるようにしていければと思うとの意見があった。

西村主幹よりICTの活用について、医療現場や地域のニーズに合わせた利用をできる能力を持った人材の育成もお願いしたいと思う。また、滋賀県立福祉用具センターとも連携していくことが重要だとの意見があった。

岩崎センター長代理より、滋賀県立福祉用具センターについては、作業療法学科の教員が関わりをもっており、連携できる体制となっているとの回答が行われた。

山本副理事長より新型コロナウイルス感染拡大により、実習の在り方についていく必要がある。もちろん、実習施設に赴き現地で実習を実施することが適正ではあるが、昨今の現状においては、VR技術やIoT機器を用いた実習方法についても、本会構成員のからも貴重な意見を賜り、検討していきたいとの意見があった。

山川学長より理学療法士、作業療法士の各士会に学生会員や準会員の制度があれば、学生に参加してもらい、各療法士の現場における生の声や意見を聴く機会になればいいと思う。

また、平岩会長よりご意見をいただいたとおり、実習については出来れば滋賀県内で完結させることが理想であり、そのためには本学の前身である滋賀医療技術専門学校 同窓会の力も非常に重要となってくると思われる。ついては、同窓会 会長である西村主幹にはさらなるお力添えをお願いしたい。

以上